



第〇学年 理科学習指導案

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)の事例を参考に作成します。文書中のPはこの冊子の中の関連するページです。

令和3年〇月〇日(×)◇校時
指導者 職名 〇〇 〇〇
場所 第〇理科室

1 単元(中項目)名 「 」

【注意】ここでの「単元」とは、学習指導要領でいう「単元」で、教科書の「単元」とは全く異なります。学習指導要領では「内容のまとめり(大項目)」の中に「単元(中項目)」があります。

例：内容のまとめり(大項目) (1)「身近な物理現象」

P37～参照

単元(中項目) (ア)「光と音」

小項目 ㉞ 光の反射と屈折 ㉟ 凸レンズの働き ㊱ 音の性質

単元(中項目) (イ)「力の働き」 ← これが「単元」です！

㊲ 力の働き

2 単元(中項目)の目標

- (1) 知識及び技能についてかく
- (2) 思考力,判断力,表現力等についてかく
- (3) 学びに向かう力,人間性等についてかく

P46～の事例1～事例7参照

学習指導要領「内容のまとめり(大項目)」の目標を単元(中項目)に変えている。

語尾は「～こと。」

例)

- (1) 光と音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (2) 光と音について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現すること。
- (3) 光と音に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

3 単元(中項目)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
P105～単元(中項目)の評価規準(例)を参考にする。		

4 単元(中項目)について

(1) 教材観

(1)～(3)のつながりを考えて書くことが大切

こんな教材で

- ・ 指導する立場で、この単元をどのように捉えるか、生徒の発達段階(小学校での既習事項)との関わりから捉えた単元(教材)の特質や意味等に触れる。
- ・ 本時だけではなく、単元全体のゴールを見据えること。



(2) 生徒観

- ・ 単元(教材)に関する生徒の生活体験や既習事項の定着等, 実態を分析する。
- ・ 生徒がもつ誤概念や曖昧さを分析する。→教師の指導改善の大きなヒント
これが指導観につながる。
- ・ レディネステストを行うなら設問の内容を吟味して。生徒の何を知りたいのか、
そして、その結果をどのように指導に生かすのかを考える。

こんな生徒だから



こう指導したい

(3) 指導観

- ・ 指導にあたっての見通しや手立てを明確にする。
- ・ 「教師の願い」を達成するために、どこで、どのような指導や支援の手立てをとるのかを単元全体を見通して具体的に書く。

5 研究主題との関わり

研究主題「 _____ 」

視点 ~~~~~の工夫

手立て

- ・ 授業づくり訪問のように、校内研究主題に迫るための指導案には必要
- ・ 年次研修等の個人の研究で、必要ない場合は省略してよい

P46~の事例 1~事例 7 参照

6 単元(小単元)の指導計画 全○時間扱い 本時 4/○

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1		知		記録に○のない時間も記載する。
2		知	○	[記述分析]
3		思		
4 本時	思	○	~~~~~ ~~~~~ [記述分析]
5		態	○	[行動観察]

【記入のポイント】

- ・ 単元でどのような学習や指導を行い、それをどのように評価するのかを示す。
- ・ 「ねらい・学習活動」 → 1 時間ごとの学習内容を「生徒の立場」で書く。語尾は「~する。」
- ・ 「重点」 → 「知(知識・技能)」「思(思考・判断・表現)」「態(主体的に学習に取り組む態度)」の、何を評価するかを示す。1 時間の観点は多くても2つ。できればひとつに。
- ・ 「記録」 → 記録に残して評価の総括に用いる授業に○をつける。ただし、丸が付いていない授業においても、教師が生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要。

7 本時の指導

(1) ねらい

..... 6 単元の指導計画で、本時の「ねらい」で記述したものを転記する。

(2) 本時の指導にあたって

- ・ 「4 単元についての(3)指導観」をより具体的に記述する。

例) (ねらいに迫るために)～のような手立てで指導する。～の場面では…をして(指導上の工夫・改善点を中心に)、生徒の○○を高め(生徒に～を身に付け)たい。

(3) 指導過程

段階	学習活動	学習活動における具体の評価規準	◇【評価方法】
導入 ○分	1 生徒の立場で書く 「～に気付く」 「～について考える」 「～について話し合う」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本時の学習を「見通す」場面 ・何かわかるようになればよいのか ・何ができるようになればよいのか </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	
課題 本時の目標を達成するための学習課題を生徒の言葉で記述する。			
展開 ○分	2 3 4		【記述分析】
終末 ○分	5 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習したことを「振り返る」場面 ・何が分かったのか。 ・何ができるようになったか。 ・次の時間は更に…を調べる。 </div>		

(4) 評価

本時の評価規準 【思考・判断・表現】	6 指導計画の「本時の評価規準」が入る 生徒の姿で記述する。「～している」
十分満足できると判断される生徒の姿	「本時の評価規準」以上の評価規準について記述する。
支援が必要と判断される生徒への手立て	支援を要する生徒への具体的な指導の手立てを記述する。

【記入のポイント】

- ・ ねらいが2つある場合には観点ごとに分けてそれぞれ記入する。
- ・ 「支援が必要と判断される生徒への手立ては」、該当生徒を「本時の評価規準」に達する段階までに高めるための指導の手立てとなる。授業のどの段階で、どのような支援を行うか具体的に書く。

(5) 板書計画

- ・ 探究の過程に沿って、授業後に生徒が学習内容を振り返ることができるようにする。
- ・ ポイントを絞って、明確な板書を心がける。
- ・ 黒板が上下2面ある場合はその形で板書計画を立てる。

(6) ワークシート

- ・ 別紙で生徒に配付する物と同じサイズの用紙で添付する。